

## 不登校予防研究部 研究報告（概要）

研究主題 市内小中学校の不登校ゼロを目指して  
 — セブncross法を活かした段階別支援策の開発 —

### 概要説明

平成22年度の不登校予防研究部では、マッピングを中心に研究を行った。23年度は、セブncross法を柱に研究を進めた。24年度は、マッピング及びセブncross法の簡易化及び普及のために研究を進め、以下の2点について研究を行う。

- ①簡易マッピングから段階別セブncross法を活かした個別支援計画の作成
- ②事例研修及び効果の検証

### 本研究の<キーワード>

- マッピング
- セブncross法
- 個別支援計画（生徒指導・教育相談への位置付け）
- 簡易化
- 時間短縮
- 短期・長期の支援策
- 段階別
- タイプ別
- 共通理解
- 共感的理解
- チーム体制（担任に偏りがないように）

## I 研究主題

市内小中学校の不登校ゼロを目指して  
 — セブncross法を活かした段階別支援策の開発 —

## II 主題設定の理由

### 1 不登校の定義

文部科学省では、「不登校児童・生徒」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいは、したくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義している。

### 2 所沢市の不登校の現状

所沢市の不登校状況は、小学校では、3年連続増加傾向が続いている。中学校では20年度から3年連続で増加していたものが23年年3年ぶりに減少傾向となった。男子は、22年度までは2割程度の増加傾向にあったが、23年度は逆に2割程度減少している。

小学校		H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度
児童 数	男子	37	37	40	47
	女子	40	22	42	45
	合計	77	59	82	92

中学校		H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度
生 徒 数	男子	113	137	153	121
	女子	153	135	157	137
	合計	266	272	310	258

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年
男子	8	3	7	9	3	17
女子	0	6	7	9	8	15
	8	9	14	18	11	32

中学校	1年	2年	3年
男子	23	47	51
女子	33	44	60
	56	91	111

学年別に見ると、学年が上がるにつれて増加していることが分かる。また、大きく増加している学年としては、小学校1年生男子や中学校1年生男子・女子が挙げられる。幼稚園・保育園から小学校、小学校から中学校へと環境が変わる際に不登校になったと考えられる。特にここ数年は、小学校低学年の不登校児童が増加が気になる。

不登校のきっかけを見てみると、病気、家庭環境、友人との関係、学業など様々な要因が考えられている。特に小学校では「親子をめぐる問題」、中学校では「無気力」が大きな要因となっている。また友人との関係も小中とも大きな要因の一つである。実際には複数の要因が複雑に絡み合っている。こうした要因を持つ不登校児童・生徒を学校復帰させるには、個々の子どもに寄り添い1ケース1ケース、個別に支援を行っていく必要がある。

### 本人に係る要因

	小学校	中学校
病気による欠席	11.8(9.0)	3.2(7.2)
あそび・非行	0	8.3
無気力	6.9	16.6
情緒的混乱	4.9	13.4
意図的な拒否	3.9	1.8
上記に該当しない	6.9	11.6
合計	34.4(52.0)	54.9(45.8)

### 家庭に係る要因

	小学校	中学校
家庭環境の変化	8.8(8)	3.6(2.7)
親子をめぐる問題	17.6(13.6)	4.7(5.5)
家庭内不和	7.8(4.5)	3.2(1.8)
合計	34.2(26.1)	11.5(10.0)

### 学校に係る要因

	小学校	中学校
いじめ	0(0)	4.7(1.8)
友人との関係	10.8(6.8)	11.9(15.5)
教師との関係	0(2.2)	2.2(1.2)
学業の不振(進路含む)	4.9(0)	3.3(4.3)
クラブ・部活動不適合	0(0)	2.5(6.0)
学校のきまりをめぐる	2(0)	1.4(3.0)
入学・編入学不適合	1(2.2)	2.2(1.0)
合計	18.7(11.2)	28.2(32.8)

その他	12.7	2.2
不明	0	3.2
計	100	100

数字は全体を100として見た% ( )は平成22年度

そこで、昨年度までの研究である「マッピング法」(子どもの内面に深く寄り添って理解する方法)、「付箋法」(多くの解決策を見出すための手法)及び「セブクロ法」(両者で得た理解やより洗練された手法を、多くの教員で共有し、チームで支援する方法)の主旨を大切に、次の3点について改善することが校内の支援に有効であると考えた。①マッピングとセブクロ法を合わせて1時間程度で取り組むことができる。②準備するものが少なく、手軽に取り組むことができる。③支援方法を不登校の段階別でまとめ、活用することができる。

そして5回の事例研修を実践する中で、改善を重ね、簡易マッピング及び段階別セブクロ法をより校内で使いやすいものにしていった。

### III 研究の内容及び方法

#### 1 簡易マッピングから段階別セブクロス法を活かした個別支援計画の作成

児童・生徒の不登校の要因は様々であり、より多様化の傾向が見られてきている。こうした社会背景の中、児童・生徒の心の内面に触れ、支援者自身が児童・生徒自身の心の中を理解することが大切であると考えた。そこで本研究部では、一昨年度、昨年度の「マッピングからセブクロス法を活かした支援方法の研究」を基盤に以下の研究を行った。

具体的には、各学校などの教育現場において、誰もが簡単に実施できるよう簡易化を目指した。簡易化することで、マッピングからセブクロス法を活かした支援計画は現在よりも広く普及し、児童・生徒の心の内面をより理解することができ、不登校予防に大いに力を発揮することができると考えたからである。

#### 2 不登校を予防する事例検討の進め方

- ①目的 不登校児童生徒の困り感に寄り添った上で状況改善に向けた支援策を検討すること
- ②参加者【必須】担任、学年担任（主任）、教育相談主任／特別支援教育コーディネーター  
【状況に応じて】養護教諭、前学年担任、管理職、関わる担任外
- ③用意 実態把握票、マッピング用紙、段階別セブクロス表、ふりかえり表、説明書、黒・赤ペン 付箋紙（3色）
- ④展開 **ステップ1**簡易マッピング（35分） **ステップ2**段階別セブクロス法（25分）

#### ステップ① 簡易マッピングによる児童生徒理解

- (1) 実態把握票から情報を確認し質疑応答をする。
- (2) マッピング用紙で
  - ①子どもが困っていることを各自、付箋に書く。
  - ②雲の中に分類して貼る。
  - ③つながりのある雲と雲を線で結ぶ。
  - ④「なりたい自分」を考える。

#### 目標

一般論ではなく、今、その子が何に困っているのかを理解することで、内容が濃く、深いセブクロスを実施できるようにする。


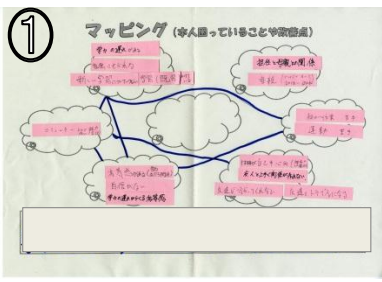
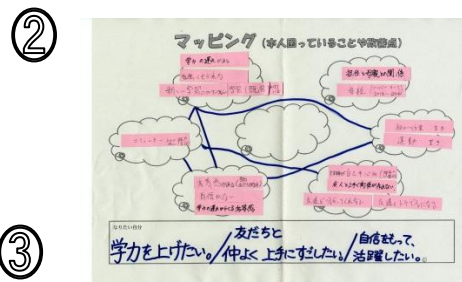
#### ステップ② 段階別セブクロス法による児童生徒理解

- (1) 付箋紙に
  - ①どの「段階」で「誰が」何をするのかを書く
- (2) 付箋紙を
  - ①整理する。（色ごとに分類する）
  - ②ファーストステップ※を決める。（※最初に取り組むもの）
- (3) ふりかえり表で
  - ①各自が取り組む。
  - ②各自が成果を記録する。
  - ③セカンドステップを決める。

#### 目標

「なりたい自分」を実現させる支援をし、状況を改善するための役割分担と、組織的対応をする。

ステップ1 簡易マッピング (35分)

活動内容 (時間)	●中心者の発言 ○活動の詳細 ※活動上の留意点
(0) 説明書で	<p>○本事例研の流れを説明する。</p> <p>※写真を紹介することで、初めての方に、完成後のイメージをもたせる。</p> <p>※全体で60分程度を予定しているため、大まかな時間配分があることを伝える。</p>
<p>(1)</p> <p><b>実態把握票 (写真)</b></p> <p>から</p> <p>① 線を引く (5分)</p> <p>② 質疑応答 (10分)</p> <p>(2)</p> <p><b>マッピング用紙</b>で</p> <p>① 子どもが困っていることを各自付箋に書く (5分)</p> <p>② 雲の中に分類して貼る (写真①) (5分)</p> <p>③ つながりのある雲と雲を線で結ぶ (写真①) (5分)</p> <p>④ 「なりたい自分」を考える (写真②③)</p>	<p>※中心者は、実態把握票に事前に目を通しておくことで、不足分を補い、スムーズに進める。</p> <p>●<u>子どもが困っている点に実線</u>、<u>担任に質問したい点に波線</u>を引いてください。</p> <p>※教師ではなく、その子の困り感を中心に線をひく。</p> <p>○順番に指名し、質問を受けた担任は、事実のみを答える。</p> <p>●多くの先生に色々な目線で考えて頂くために、「事実のみ」をお答えください。</p> <div data-bbox="1212 492 1388 728" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="454 884 1364 974" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標：一般論ではなく、今、<u>その子</u>が何に困っているのかを理解することで、内容が濃く、深いセブクロスを実施する。</p> </div> <p>●これから付箋に「子どもが困っていること」を書き、用紙の雲の中に貼って頂きます。後で議論をしますので、ここでは粛々と進めてください。</p> <p>※できるだけ具体的に書く。</p> <p>(×朝がづらい→⑩寝るのが遅いから起きられない・⑩授業のことを考えると怖くて起きられない)</p> <p>※似ている付箋をまとめることで気付いたり、見えてくるものがある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="486 1254 869 1534" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①</p>  </div> <div data-bbox="917 1254 1380 1534" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②</p>  </div> </div> <p>●分類して頂いた雲で、つながりのあるものを線で結んでいきます。Aの原因がBだとか、自信がもてないという意味で関連する等、意見を出し合いながら結びましょう。</p> <p>※「困り感」を立体的 (前後関係・因果関係)にとらえる。</p> <p>※結ばれた線の数が多い雲が、「困り感」の中心で、重要度の高いもの</p> <p>○重要度の高いものから3つ程度、具体的にまとめて書く。</p> <p>●結びつきの多い雲から、その対極にある理想像を考えます。これができたら登校できるというようなものを3つ程度書いてください。</p> <p>※ネガティブな気持ちの反対に「なりたい自分」を見付ける。</p> <p>→なりたい自分になれたら、登校できる。</p>

ステップ2 段階別セブクロス法 (25分)

(1) 付箋紙に

目標：「なりたい自分」を実現させる支援をし、状況を改善するための役割分担と、組織的対応をする。

●簡易マップを通して浮かんだ子ども像から、支援策を考えます。「なりたい自分」ごとに付箋の色を分け、忌憚なく、粛々と進めてください。

① どの「段階」で「誰が」何をするのかを書く

→段階別セブクロス表に貼る (15分)

※「( )」には子どもの支援のリソースとなる対象があれば入れる  
例：(友達が) (関係機関が) (相談員が)

※この子に目標を達成させるための対策を書く。

※いつ、どこで、誰に、何をするのかを、具体的に文章で書く。

(×関わりを増やす → ◎会話する時間を決める・毎日「ってきます」を言う)

●今後の見通しをもつためにも、先の「段階」の空欄にもお願いします。

「予想される〇〇の場面では△△をする」と具体的に書いてください。

※「その他」には、「突然登校できた朝には」や「始業式など節目では」や「運動会など行事前や後に」等々、考えられる場面を設定して書く。

(2) 付箋紙を

①整理する (写真④) (5分)

●色ごとに分類し、内容が同じものは重ねてください。

※この段階で用紙をコピーしておくとうい (白黒コピーに3色ペンの線で囲む)

④

	担任が	チーム/学年が	担任外が	保護者が	(友達)が
現状/得意な得意	担任が得意	学年/学年得意	担任外得意	保護者が得意	(友達)得意
長文/別室登校	担任が得意			保護者が得意	(友達)得意
その他					

( )月( )日まで

⑤ ⑥

	内容	結果
担任が		
チーム/学年が		
担任外が (関係機関)		
保護者が		
(友達が) が		

② ファーストステップを決める (写真⑤) (5分)

○ファーストステップは、何色の付箋を取り組むか決める。(なりたい自分の色)

○決まった色の付箋から、**担当する各自が自ら選び**、最初に取り組むものをふりかえり表に移す。

※負担過重にならぬよう、「まず・できることを・1つか2つ」選ぶ

●各自「明日からすぐにできること」を選んでください。

○ふりかえり表を、担当者分コピーして、2週間程度取り組みを依頼する。

●本日はありがとうございました。2週間後、反省会を開きますので、それまで、ご担当の部分の支援をお願いします。

(3) 振り返り表で

①各自が取り組む  
②各自成果を記録する (写真⑥)  
③ 2カドステップを決める

○日常生活の中で、担当者同士意識し合いながら、この子のために取り組む。

○「効果のある・なし」とともに、その様子等詳しく書く。

※2週間後に反省会を予定し、それまでに成果の記録を依頼する。

○成果に基づいて取組を継続するか、3×5表から次の付箋を選ぶか決めて、2枚目のふりかえり表に移す。

→2週間程度取り組む。

→その後は、同じ流れで支援策を検討する。

※段階別セブクロス表が、取組の進捗状況を表す。

### 3 不登校を予防する事例検討の進め方の流れ

(0) 実態把握表で該当児童の状況を把握する。

実態把握表【個別】 (新規・継続) 期： 年 月 日

所属校・クラス	学校	姓	名	性別	学年							
氏名												
性別												
転居年月	年 月 日											
転居理由・学校												
転居先												
欠席日数	月1	月2	月3	月4	月5	月6	月7	月8	月9	月10	月11	月12

1. 事によること、困っていること、抱えていること

2. 困っていること、困っていること、抱えていること

3. 困っていること、困っていること、抱えていること

4. 困っていること、困っていること、抱えていること

5. 困っていること、困っていること、抱えていること

6. 困っていること、困っていること、抱えていること

(1) 説明書で事例検討の見通しを立てる。

不登校を予防する事例検討の進め方

**ステップ① 簡易マッピングによる児童理解** 35分

(1) 実態把握表 から、

- ① 赤線を引く (子どもが困っている点 質問したい点) (5分)
- ② 質疑応答 (10分)

(2) マッピング用紙 で、

- ① 子どもが困っていることを各自付箋に書く (5分)
- ② 書の中に分けて貼る (5分)
- ③ つながりのある雲と雲を線で結ぶ (5分)
- ④ 「やりたい自分」を考える (5分) (残り10分) (残り10分)

困りに陥っている子どもの困りの壁に  
寄り添った支援を検討を!

**ステップ② 段階別セブクロス法による支援策** 25分

(1) 行楽紙 に、

- ① 「いつ」「誰が」「誰に」向き、  
するの具体的な書く、  
「やりたい自分」別に色分け。
- ② 行楽紙 に、

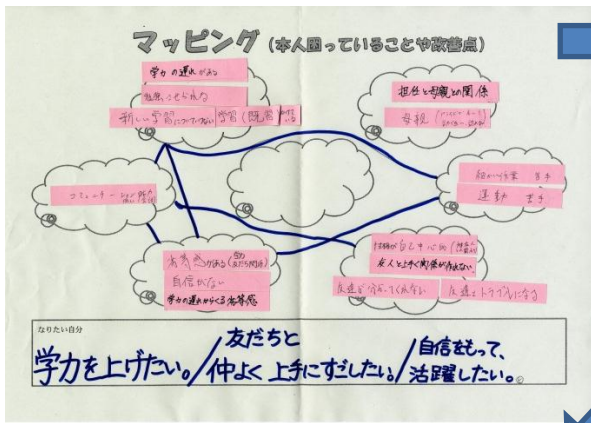
- ① 整理する (書ける・書べない)
- ② ファーストステップを決める

(3) 5/6の表 で、

- ① 各自取り組む。
- ② 各自結果を記録する。
- ③ セカンドステップを決める

(2) 付箋に児童の困っていることを書き、分類する。  
れ関係のある雲と雲を線で結び、考える。

(3) 段階別セブクロス表に、どの段階で  
が何をするのかを書き、整理する。  
※これが取組の進捗状況を示す



	担任が	チーム/学年が	担任外が	保護者が	(友達)が
現状 困り 点	担任が関係が 悪く、授業が 進められない 授業内容が わからない 授業内容が わからない	新しい学習内容 が難しい	本人の学習 困難	担任外に 相談できる 連絡の 取り方	クラスで 話したい 声かけ してほしい
長欠 別室 登校	交代授業 が難しい 学校 生活			担任外に 相談 してほしい	担任外に 相談 してほしい
その他		家族が 心配			

( )月( )日まで

(4) 段階別セブクロス表から各自が自分で取り組  
むものを決め、ふりかえり表に移す。結果を記録する。

(5) ファーストステップ終了後、セブクロス表  
からセカンドステップを決める。以後、継続していく。

ふりかえりシート

	内容	結果
担任が	担任が関係が 悪く、授業が 進められない	担任が関係が 悪く、授業が 進められない 授業内容が わからない 授業内容が わからない
チーム/学年が	新しい学習内容 が難しい	新しい学習内容 が難しい 授業内容が わからない 授業内容が わからない
担任外が (養護教諭)	本人の学習 困難	本人の学習 困難 担任外に 相談できる 連絡の 取り方
保護者が	担任外に 相談 してほしい	担任外に 相談 してほしい 担任外に 相談 してほしい
(友達)が	クラスで 話したい 声かけ してほしい	クラスで 話したい 声かけ してほしい 担任外に 相談 してほしい

実施期間：( )月( )日

ふりかえりシート

	内容	結果
担任が	担任が関係が 悪く、授業が 進められない	
チーム/学年が	新しい学習内容 が難しい	
担任外が (養護教諭)	本人の学習 困難	
保護者が	担任外に 相談 してほしい	
(友達)が	クラスで 話したい 声かけ してほしい	

実施

## IV 事例研修

### 1 小学校簡易マッピングから段階別セブクロス法研修会

(1) 日程 平成24年 9月18日(火)

(2) 参加者 教頭、養護教諭、担任、教諭3名、不登校予防研究部員3名

(3) 事例

高学年女子。学力は、あまり高い方ではなく、特に算数は低い。学校生活では、友人は多いわけではないが、大きなトラブルもなく過ごしている。休み時間等は、数人の友だちと室内で絵を描いていることが多い。男子とじゃれ合うこともある。

元気がない感じがする。各行事では、係や委員に立候補することが多い。母親との面談で一番気になるのが、12時過ぎに寝ることが多々あること。

6月に生活習慣の改善を本人と約束。今まで以上に担任と本人との会話を増やした。それ以降、欠席は少なくなった。

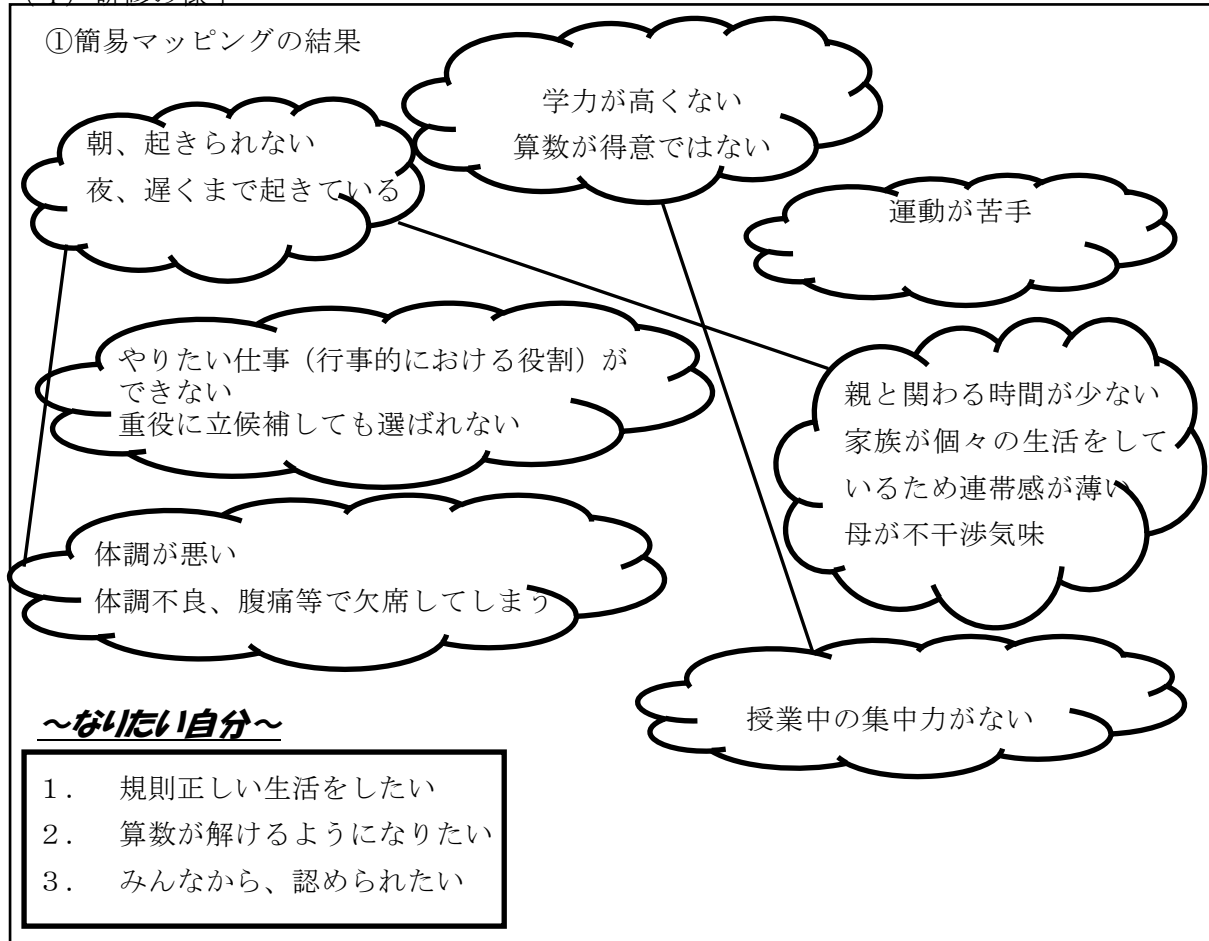
月	4月	5月	6月	7月	9月
欠席数	3	6	2	1	1 (18日現在)

本校での欠席数は以下の通りである。

学年	1年	2年	3年	4年	5年
欠席数	8	4	11	12	8

### (4) 研修の様子

#### ①簡易マッピングの結果



③ 段階別セブクロス法による分類

※※ 段階	担任が	チームが	担任外が	医療機関	本人	家庭に	友達に
登校しぶり	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な役割を持たせ達成感、満足感を味わわせる。</li> <li>声掛けを増やす。</li> <li>ほめる機会を増やす。</li> <li>声かけを増やす。</li> <li>ほめる機会を増やす。</li> <li>算数の補習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の状態を把握し、共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導教諭に算数の補習をしてもらう。</li> <li>算数などの学習に対し、個別対応する。</li> <li>担当する授業等でより関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>念のため体調不良、腹痛の原因を医師に相談する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まった時間に寝る。</li> <li>学校に行く時、「行ってきます。」と言う。</li> <li>生活チェック表をつける。</li> <li>生活習慣を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜・朝の生活習慣を見直してもらう。</li> <li>本人との関わりを増やしてもらう。</li> <li>本人との会話を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちがその子を認められる機会を増やす。</li> <li>欠席のときに、近くに住むクラスのお見舞いして、本人と会話する。</li> </ul>
長欠	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝本人に電話をかける。</li> <li>生活リズムを崩さない。</li> <li>学校へ行くことへの賞賛。</li> <li>電話連絡をしていく。</li> <li>遅刻でも学校に来られたことを肯定する。</li> <li>手紙、家庭訪問、連絡帳で連絡をとる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>起床時間など1日の生活リズムをてきよキープしてもらう。</li> <li>面談をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスのみみんなで励まされる声をかける。</li> <li>授業が進んだ分のコメントを入れて渡す。</li> </ul>
別室登校チャンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙、家庭訪問、連絡帳で連絡をとる。</li> </ul>						
別室登校チャンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙、家庭訪問、連絡帳で連絡をとる。</li> </ul>						

④ 振り返り表

<振り返り表 9月19日(水)～10月3日(水)>

	内容	結果
担任が	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な役割を持たせ、達成感・満足感を味わわせる。</li> <li>声かけを増やす。</li> <li>ほめる機会を増やす。</li> <li>算数の補習をする。</li> </ul>	<p>クラスの掲示物の絵を担当してもらった。 恥ずかしがりながらも見せ、嬉しそうだった。 嬉しそうに話してくれた。</p>
学年が	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の状態を把握し、共通理解を図る。</li> </ul>	<p>問題が解けると喜んでいて。 その子の様子などを話し合う機会が増えた。</p>
担任外が 少人数指導教諭が	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導教諭に算数の補習をしてもらう。</li> <li>算数などの学習に対し、個別対応する。</li> <li>担当する授業等でより関わる。</li> </ul>	<p>勉強漬けになるのであまり好んではない。</p>
外部機関 (病院)	<ul style="list-style-type: none"> <li>念のため体調不良、腹痛の原因を医師に相談。</li> </ul>	<p>その後、落ち着いたため行ってはいない。</p>
本人に	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まった時間に寝る。</li> <li>学校に行く時、「行ってきます」と言う。</li> <li>生活チェック表をつける。</li> <li>生活習慣を見直す。</li> </ul>	<p>担任と約束したので守っている様子。 欠席は減った。</p>
家族に	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜、朝の生活習慣を見直してもらう。</li> <li>本人との関わりを増やしてもらう。</li> <li>本人との会話を増やす。</li> </ul>	<p>仕事等がいそがしく、なかなかすぐにはできない様子。</p>
友だちに	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちがその子を認められる機会を増やす。</li> <li>欠席のときに、近くに住むクラスの子がお見舞いして、本人と会話する。</li> </ul>	<p>直接的には行っていないが、クラスが人に対して温かく接することができるような雰囲気づくりをしている。</p>



#### ④参加者の感想・意見

- この研修を行うことによって、見えなかった部分が見えてくるようになった。
- 学年の先生、教育相談主任は、絶対に参加してもらった方が良い。
- 参加者が熱心に行ったため、やはり時間がかかってしまう。この研究を拓げていくためには、さらなる時間短縮が必要。
- 学校ができることは限られているので、あれもこれもやるのではなく、少しでいいので確実にできるものを考えていく方が良い。

#### (5) 成果と課題

##### ①成果

- ・本事例研修までに研究した簡易マッピング、段階別セブクロス法が機能し、スムーズに行えた。
- ・初めて研究員以外の教諭で行えたため、今までとは違った視点・多角的な意見、アイデアが出て充実した研修になった。

##### ②課題

- ・時間が当初の予定よりも 30 分近くオーバーしたため、さらなる時間短縮が必要。
- ・実態把握票の工夫・改善が必要。
- ・付箋に書く内容は、具体的に、そしてどこを解決するかなど明確に記すことが大切。
- ・何をその子の目標とするかなど目標設定が曖昧になってしまったので、目標の明確化が必要。

2 小学校「簡易マッピング及び段階別セブncross法研修会」

(1) 日程 平成24年10月24日(水)

(2) 参加者 教頭、担任、学年担任、特別支援教育コーディネーター、教育相談主任、不登校予防研究部員3名

(3) 事例

高学年女子。本年度から転校してきた。前の学校でも不登校。コミュニケーション能力が乏しく、またトラウマを抱えているため、対人関係を理由に欠席することもある。学習面の遅れから授業にはついていけないが、意欲はある。しかし別課題等は好まない。持久力はないものの、運動自体は得意である。さらに読書や裁縫など得意なものもいくつかある。担任がプレッシャーにならない程度に家庭訪問すると、翌日は登校できることが多い。

前の学校での欠席数は以下の通りとなっている。※3年生より4・5年生の方が少ないのは、適応指導教室の通級を出席扱いとした為。

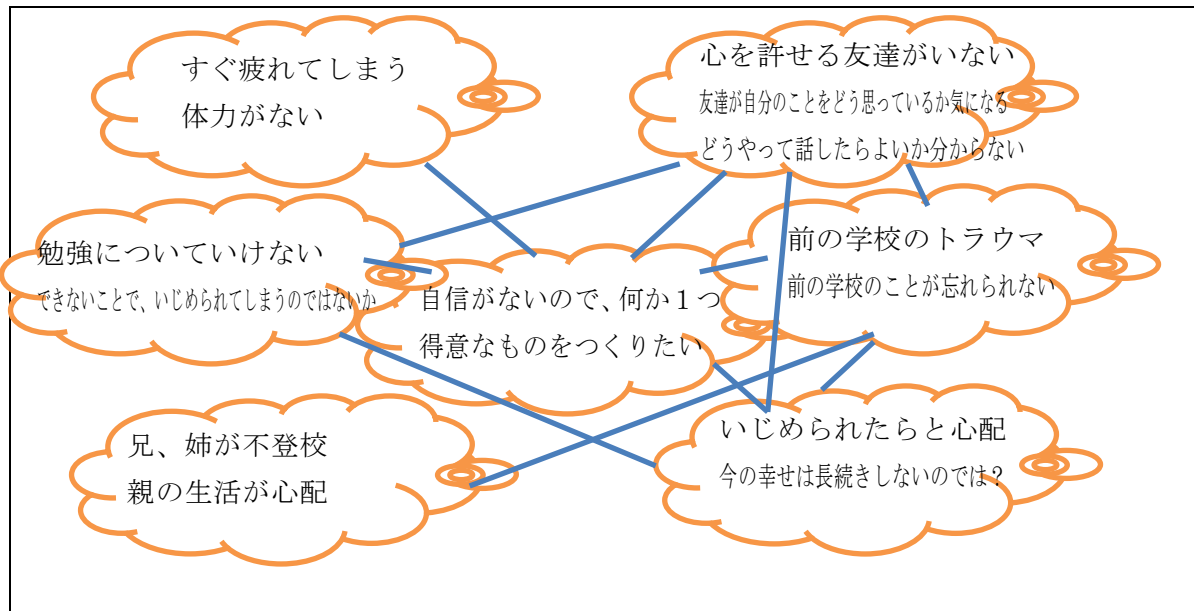
学年	1年	2年	3年	4年	5年
欠席数	23	101	167	※101	※149

本校での欠席数は以下の通りとなっている。

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
欠席数	0	5	15	9	16	10	2	3

(4) 研修の様子

①簡易マッピングの結果



～なりたい自分～

⊕何か得意なことを作って  
自信をもちたい

⊕心を許せる友達を作りたい

⊕勉強ができるようになり  
たい

②段階別セブクロス法の結果

(付箋の色を記号で表示…○黄色 △赤 □緑)

	担任が	チーム/学年が	担任外が	保護者が	(友達)が
現状 (渋り・欠席増)	○持久走で認めさせること ○弱さの克服 ○体育の授業で工夫と評価 △○人と遊ぶ宿題を出す △趣味の話を持ちかけがらの話題に □宿題だけに、復習プリントを追加する	○親善体育大会での活躍 ○持久走大会で自信をつける △気持ちの橋渡しをする	○好きな理科で自信をつける □本人の学力の情報交換 △保護者が相談できる人を増やす	○家庭の中の共同体験(料理等) □焦らずにできる所からやってみる	○声かけ □クラスの中の教え合い
別室登校 長欠	○1年生との交流の機会をつくる □単純な宿題を出す	△学年にこだわらない友達づくり	△クラブで楽しみを経験する	□学習面での補助を考える	△共通の趣味や遊びをつくる
その他	○ナップザック作りで活躍 ○読書月間で発表の場を設ける	△クラスの枠を越えた共同作業や行事の体験	□音楽会で心にしみこむ体験を		

③ふりかえり表

②の段階別セブクロスの表から、㊦「何か得意なことを作って自信をもちたい」に関わる内容に移し替えたものと、2週間実施しての変化や様子。

	内容	結果
担任が	○持久走で認めさせること ○弱さの克服 ○体育の授業での工夫と評価	持久走練習で何度もリタイアを繰り返すもあきらめず、挑戦し続け完走することができた。 ひとつの達成が波及し、その他の活動にも自信をもって取り組むようになった。 係の仕事や宿題も着実にこなし、学習の遅れについても気にしなくなってきた様子。
チーム/学年が	○親善体育大会での活躍 ○持久走大会で自信をつける	学年で取り組む様々な活動を通じて、他のクラスにも友達ができ、人間関係の広がりをもたせることができた。
担任外が	○好きな理科で自信をつける	決して目立たないが、活動の様子が自然に感じられるようになった。これまでの「客」状態を脱却し「仲間」として活動している。
保護者が	○家庭の中での共同体験(料理等)	家庭での取り組みが、落ち着きをもたせ、学校での生活に前向きになっている様子。 取組を通じて、家庭との信頼関係が築け始めている。
(友達)が	○声かけ	持久走練習に励む姿に応援をしていた。 交友関係が広がり、休み時間一人でいることがなくなった。

#### ④参加者の感想・意見

- 客観的に見ることができたので、問題の全体像がとらえられた気がする。
- 本人の自信をつけたいという困り感に寄り添う形で、担任だけでなく、学年や担任外にも輪を広げて取組を考えることができた。
- 具体的に、誰がどう動くのかが明確となって、教師自身の目標にもなった。
- 担任1人では、なかなかここまで分析することができないもので、これまで気が付かなかったようなことにも気が付けた。これ以降、アプローチの仕方が変わった。
- 不登校が続いていたため、本人にとって全てのことが初めての経験なのだと思う。我々教師側が見通しをもって、取り組ませることができると、その初経験を楽しく積み重ねさせることができる。その積み重ねが本人の自信につながったような気がする。

#### (5) 成果と課題

##### ①成果

- 事例研究が、約1時間で終了した。
  - マッピングとセブクロス法は本来、より細かな手順があり、一層の深まりをもたせる研修方法である。学校現場では、複数の課題を抱えていることが多く、限られた時間の中で有効な研修とするには、1時間程度で終わられるものが妥当と考え、研究を進めてきた。予定していた時間配分には収まらなかったものの、およそ1時間で終了できたことは、どの学校でも取り入れやすい形に近づけることができたのではないかと考える。
- 主に該当学年の先生方が中心となって研修できた。
  - 中心者用展開案をもとに、進行する係は研究員が行ったものの、付箋を貼ったり整理したりする部分では、学年主任の先生を中心に研修をして頂くことができた。つまり初めて進め方を聞いた方でも主体的に取り組んで頂ける内容であったということが言える。本研究方法を普及するという目標に、一歩近づくことができたのではないかと考える。

##### ②課題

- 実態把握票による質疑応答に時間がかかった。
  - 実態把握票をもとに担任の先生に質疑応答をする際、基本的には事実のみを確認し、簡易マッピングに進む訳だが、今回は話が盛り上がりすぎてしまい、予定を大幅に越える時間を費やしてしまった。質問せずとも理解が深まる（質問が少なく済む）ような実態把握票の更なる改善と、司会となる先生用の中心者用展開案の改善が今後の課題となった。
- 段階別セブクロス法の支援策が埋まらなかった。
  - 前項の段階別セブクロス法の結果を見ると、下のマスが埋まっていない。これは、「その他」の趣旨を参加者に伝えきれなかったことが原因であると反省している。「その他」には、長欠の先に予想されうる状況を指しており、例えば「突然登校ができたとき」や「大きな行事の前後」や「年間の中で節目となる学期末や長期休業」など大きなチャンスとして取り扱える段階が考えられる。そういった、先の見通しをもつことができることが、セブクロスを「段階別」にした大きな目的のひとつである。このことを的確に伝えうる説明が不可欠であり、今後の課題となった。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 前年度からの引き継ぎ

昨年度、本研究部で検討されたセブクロス法を広く普及していくに当たり、一回の事例検討に多くの時間がかかっていることが問題となった。学校では、一回の事例検討会には、多くの時間を割けない現状がある。セブクロス法を普及させていくには、短い時間でより手軽に、初めての人でも取り組みやすいものにする必要がある。そのため、今年度の研究では、昨年度のセブクロス法の成果の上に、より取り扱いやすくするためには、どうすれば良いかを検討することとなった。

### 2 セブクロス法を生かした段階別支援計画の開発の成果と課題

#### (1) 成果

##### ① その子に寄り添った持続的な支援策

児童に寄り添った策を考えていく中で、登校しぶりに対する支援策は多く見つかるが不登校が長引いてしまった際の支援策は、なかなか考えられていなかった。そこで、本年度のセブクロス法では、その児童の不登校の状況を段階別に想定し、それに合わせた持続的な支援策を考えることにした。その結果、支援の時期を明確化し、その子に寄り添った持続的な支援策を考えることができるようになった。

##### ② 時間の短縮（マッピングから簡易マッピングへ）

学校の中で行われる部会や、学年の中での話し合いの中で、セブクロス法を行ってもらうには一時間程度で行えるものにする必要がある。そこで、前段階に当たるマッピングを行わないでセブクロス法を実施してみた。しかし、マッピングを抜いてしまうと子どもの気持ち、困り感に寄り添うことが出来ない。そこで、マッピングを行わないのではなく簡易的なものに実施することにした。必要な用紙を作成し、その中にあらかじめ雲を書き込んでおいたり、分割されていた作業を一つにまとめたりするなどをし、6行程あったものを4行程にまで絞った。その結果、1時間程度かかっていたマッピングが35分でおこなえるようになった。また、セブクロス法を行う時間も、複数の色付箋紙を使うことで焦点を明確化したり、支援策をより具体的に書くなどの決まりを作ることで、25分で行えるようになった。

##### ③ チームが見通しをもって取り組める支援策の作成

昨年度のセブクロス法での成果である、多様な支援策を、時間を短縮した中でも確保することができた。また、振り返り表を別に設けることで、行った支援策と、まだ行っていない支援策を区別することができ、反省会の際にも振り返り表を使って、行った支援策を確認しながら次の支援策を選ぶことができるようになった。また昨年度は、支援策の決定を担任と中心者に一任していたが、今年度は、各支援者自らがいくつかある支援策の中から選べるようにし、負担の軽減をはかり進んで取り組むことができた。

#### (2) 課題

##### ① 方策の普及

今年度行った事例検討では、二校とも司会を本研究部員が担当した。しかし、普及した際には、初めて取り組む教員が司会をしていく事になる。その教員に事前の準備や負

担をかけないよう、簡易マッピングや段階別セブクロス法の手順をより分かりやすくまとめ、使用する用紙等もより使いやすいものに改善を重ねていく必要がある。

## ② 本質の伝達

本年度は、「簡易マッピングと段階別セブクロス法」といった枠組みを完成させることを目指した。「簡易マッピングと段階別セブクロス法」普及させていきたいというのが当面の目標ではあるが、最終目標は、これらの手法の本質を伝えていく事である。「簡易マッピングと段階別セブクロス法」を体験していく中で、『その子に寄り添う大切さ』、『多くの人で支援をしていくこと』、『支援策1つではなく、たくさんあること』という考え方を習得してもらおう。事例研修会を行う中で、最終的には、セブクロス法を行わなくても常にこれらの本質を見失わずに、支援ができると考えている。その重要な本質を落とさないよう今後も研究を進めていきたい。

## 3 次年度へ向けて

本年度の研究員は、小学校教員しかいなかったため、中学生での事例検討を行うことができなかった。来年度は、中学校でも事例検討を実施することで、改善や修正を図りたい。小・中学校どちらでも使えるものを作り上げ、所沢市内の小中学校へこの方法を普及できるようにしたい。不登校がゼロになることを目指し、来年度更なる研究を続けていきたいと考えている。